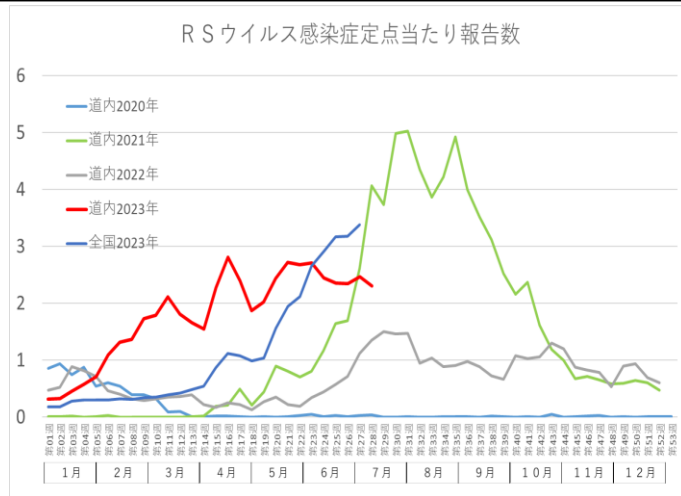
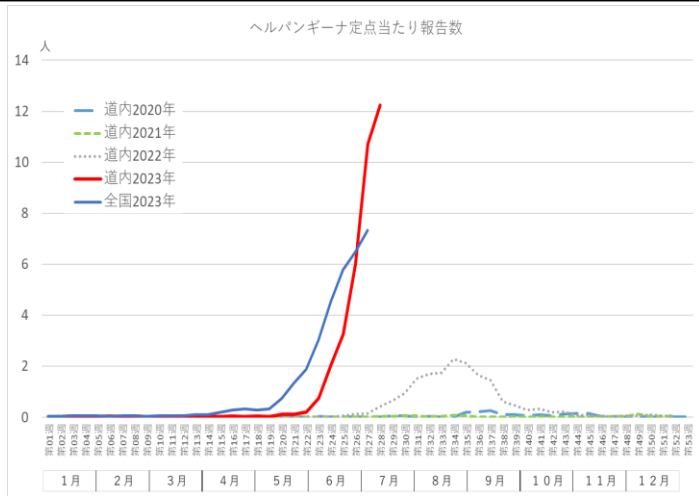


ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症に 注意しましょう！

夏に小児がかかりやすい感染症である「ヘルパンギーナ」と、主に秋から初冬にかけて乳幼児の間で流行する「RSウイルス感染症」の報告数が増加しています。今後、さらなる感染の拡大が懸念されますので注意しましょう。

道内の発生状況

道内の定点医療機関から7月10日から7月16日（第28週）に報告された「ヘルパンギーナ」の報告数は定点当たり12.24人で、警報レベルの基準値6人を超えています。また、「RSウイルス感染症」は2.30人となっており、ともに例年より早い時期での流行がみられます。



ヘルパンギーナとRSウイルス感染症の特徴

	ヘルパンギーナ	RSウイルス感染症
主な症状	急な発熱、咽頭痛、口の中にできる1mm～2mmの小水疱、食欲不振	発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状 細気管支炎、肺炎など重症化する場合があります
原因となる病原体	コクサッキーウイルスなど	RSウイルス
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染	飛沫感染、接触感染
潜伏期間	2～4日	4～6日
その他	症状が治まった後も患者の便には1ヶ月程度ウイルスが排泄されるので注意 脱水症状にならないように、水分をしっかりと取りましょう	乳幼児早期（生後数週間から数ヶ月間）に初感染した場合は重症化しやすいので注意が必要です

◆感染予防のポイント

- ハンドソープと流水による手洗いをしっかりと行いましょう。
- 集団生活の場では、タオルの共用は避けましょう。
- 子供が日常的に触れる、おもちゃなどの消毒をしましょう。
- おむつの交換などは、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしましょう。
- 鼻汁、咳などの症状がある場合は、マスクの着用を心がけましょう。



北海道

北海道保健福祉部感染症対策課

一般社団法人

特定非営利活動法人

北海道医師会

北海道病院協会